

## 第3回鹿野地域振興会議議事概要 (日南町役場・道の駅「にちなん日野川の郷」視察)

日 時：平成30年7月17日（火） 午前9時00分～午後5時05分

場 所：鳥取県日南町役場1階 防災会議室

### 【出席委員】

山田薫、小川義和、兼平恵、池原美穂、砂川重雄、山本章、佐々木千代子、田中文子、伊井照幸

以上9名出席（敬称略）

### 【欠席委員】

山下直司、筒井洋平（敬称略）

### 【事務局】

徳岡支所長、乾副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、岡田産業建設課長、上野市民福祉課長、三谷地域振興課長補佐

### 【日 程】

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ

（1）日南町役場企画課出口室長

（2）田中会長あいさつ

#### 3 視察研修

（1）にちなん日野川の郷

（2）日南町役場

#### 4 その他

#### 5 閉 会

## ◎視察概要

鹿野地域振興会議では、鳥取県日南町の道の駅「にちなん日野川の郷」を拠点とした①コンパクトヴィレッジ構想②利便性の高い公共交通の確保に向けた取り組み③移住・定住の取り組みの視察研修を行った。

### 1. 日南町のコンパクトヴィレッジ構想

#### 日南町企画室長説明

日南町は、平成の合併は行っておらず、昭和の合併以来、昭和35年をピークに人口減少し、人口も1万6千人から4千8百人を切った状況で、高齢化率は約50%である。面積は、鳥取県の面積の1/10にあたる340.96K㎡で、約90%が森林である。主要産業は、農林業及びそれに付随する加工業・サービス業で、特産品は、米・トマト・ネギ・ブロッコリー等の農産物、木材及びこれらの加工品である。

研修では、①日南町のコンパクトヴィレッジ構想の概要として道の駅「にちなん日野川の郷」を核とし、中心地に役場、病院、健康福祉センター及び買い物ができる場所を半径1km圏内に集積していることなど住民が住んでいる場所からその中心地に出てきていただき巡回EVバスを走らせ必要な用事（買い物・病院・役場等）がすべてできる仕組みづくりについて説明を受けた。

また、環境貢献ができる道の駅として鳥取県初こだわり1品1円のカーボンオフセットの取り組みで「FSC認証施設」（※森林の環境保全に配慮し、さらに経済的にも持続可能な、適切に管理された森林を国際的に認証する制度）に取り組み、売り上げの一部を森林整備にまわす仕組みの構築を行ったことや巡回EVバスにより、道の駅周辺の半径1km圏内に1日7便を運行する公共交通の確保に向けた取り組みを行ったことなど様々な取り組みについて詳しく説明を受けた。

【委員】巡回バスは平日7便と聞いたが、土日・祝日の巡回バスは運行していないのか。

【日南町】基本的に役場等に来られる平日運行と考えていたので、病院等も休みとなる土日・祝日の巡回バスは運行していない。

【委員】バスの利用率はどのくらいか。

【日南町】巡回バスの乗車率は、年間、約20%くらいである。

【鳥取市】1km圏内という核を作り周辺地区に住いの方は出てきて頂くということだが、町全体の1km圏内の位置づけとか、山間部の各エリアの関係を聞かせ

ていただきたい。

【日南町】基本的に半径1km圏内は巡回バスでまわしている。日南町は鳥取県の1/10の面積があり非常に広いので、各地でお住いの方は一旦路線バス等が出てきていただき、デマンドバスの利用後、巡回バスに乗り換えて利用していただく仕組みになっている。

【鳥取市】特に1km圏内エリアに居住誘導しようという考えはないのですか。

【日南町】1か所に集中してしまうとどうしても他が廃れてしまうので、居住の場所はそのままで、役場利用とか買い物などを集中的に1か所ですませ効率よくする仕組みをとっている。農業も盛んなので中心に居住を誘導する考えはしていない。

【委員】鹿野もそうだが、朝の通学の1時間1本以外は非常に利用者が減るが、そのあたり特別な便を出すとか中心地にどう集めるかの工夫が何かあるか。

【日南町】日南町は鹿野町と殆ど状況は同じである。朝の通学などの時間帯は同じでお昼までの間は、デマンドバスを走らせて利用していただくようにしている。

また、昨年からタクシー助成も行っている。バスの都合が悪い時間帯を皆さんで乗り合わせてタクシーを利用して中心地に出てきていただくようにしている。

## 2. 日南町における公共交通施策の取組み

### 日南町企画課主事説明

次に②利便性の高い公共交通の確保に向けた取組みとして配布資料で説明を受けた。バス路線は町内5路線で旧小学校区をそれぞれ運行している。運行主体としては、市町村有償運送として路線バスはバス事業者へ委託し、デマンドバスは地域によってタクシー事業者やバス事業者に委託している。多里地域においては、公共交通空白地有償運送としてデマンドバス運行をNPOに委託している。

平成27年日南町公共交通総合計画を策定し、目指すべき方向性とし、3つの課題を挙げ、H27に調査、H28に計画策定、H29に実証と改正していったとのことであった。

- (1)交通空白地帯の解消課題
  - ①デマンドバスのドア・ツー・ドア（検討中）
  - ②タクシー助成制度の導入（H29より導入）
- (2)利便性の向上に対して
  - ①フリー乗降の導入（町内一部：病院）

## ②運行時間の変更

3 行政負担の改善に対して ①使用車両の小型化

②利用者が少ない便の減便

(効率の良い時間帯に変更)

デマンドバスの運行は、ドア・ツー・ドアになっておらずバス停からバス停の運行であるが、タクシー制度の導入によりそのデメリットが解消された。対象者1人あたり20,000円分のチケットを交付し(交付対象者:高齢者・障がいのある方等)乗り合での割り勘利用も可能となっており、地元企業(スーパー等)での購入金額に応じて発行するタクシーチケットの活用等もあるという説明であった。

【委員】多里線で圧倒的に利用者が多いのはどういう分析か。

【日南町】路線が長く、多里地域の利用者に高齢者が多いということと山上地区の住民も利用しているためである。

【委員】利用者の声で、「起点が道の駅になっており、場合によっては料金が200円ではなく、400円になってしまうケースが発生するのを改善して欲しい。」とあるのはどういうイメージか。

【日南町】中心地から出てこられた方が学校で降りて再度巡回バスに乗り病院へ行く時など、すぐ道の駅で終点を迎えてしまい起点から発生する200円の料金を支払って病院に向かうことになるため、複合的に追加運賃が発生してしまうこともあり、役場を起点に変更した方が重複しないで起点の1便の終点が完了しやすいため改善した。

【鳥取市】市町村有償運送の委託業者の収支はどのような推移となっていますか。

【日南町】基本的には補助金を充てており、運行については町補助金と県からの補助金の2種類である。

【鳥取市】NPOが運営している公共交通空白地有償運送の方は、委託ではなくNPO独自の運営ということですか。

【日南町】公共交通空白地有償運送は、独自の運行である。

【鳥取市】収支のマイナスを補うようなことはありますか。

【日南町】収支については、ギリギリ、トントンと聞いている。デマンドバス自体は日南町より委託を受けていて、車の維持費や保険代は日南町の補助金である。NPO独自で行っているドア・ツー・ドアの運行については回っているというこ

とである。距離からして通常200円のところを多里地域は500円で運行しているのは、地域全員の方を3年くらいかけて説得され、全員が利用できる会員制にし、会費と利用料、デマンドバスの委託料の総トータルでどうにかNPOの運営が回っているということである。

### 3. 移住・定住の取組み

#### 日南町企画課室長・移住専任相談員説明

青年結婚IUターン促進事業として若者を中心とした事業に取り組んでおり、主に空き家情報活用制度（空き家バンク）や移住専任相談員や集落支援員の配置、住宅支援を中心に説明を受けた。

まずは、どんな人が住んでいるのか、どんなサービスがあるかなどについて、移住希望者に知ってもらい、見てもらい、聞いてもらうという立場で重点的に取り組んでいるということであった。

空き家情報活用制度は、空き家バンク（まるごとバンク）として平成18年に始めて以来、平成29年度で延べ78件程度登録しており、昨年の実数登録は11件、大字までの所在地や、築数、外観の写真等がHPに紹介されている。1万6千人あった人口が4千8百人に減少しているので1/3は単純に空き家となっていると考えられるが、空き家になっても直ぐに貸し出す状況にはならないのが現状とのことであった。

また、遠くに住んでいてもたまには帰りたいとか物をすぐ処分できないとか他人に家に入ってもらいたくないなどの理由でなかなか手放せない状況があるが、住める新しい状態のうちに使えるように次の方に繋げていき空き家登録できるように進めているということであった。空き家バンクの契約状況等は、H28は一番相談が多かった中、H29では165件の相談中27件は見学にきていただき、そのうち12件程度は契約が成立し、3日に1回は連絡が来ている状況とのことだった。

さらにまちづくり協議会や地域住民に情報提供をいただいた内容などについて固定資産税の税のお知らせの時にチラシと一緒に配布して情報を発信しているということである。

空き家調査として、鳥取県は空き家率が13.8%のところ日南町は18.3%の高い結果がでており、住民課が平成27年に実施した。外観の目視による調査では空き家が508戸ありそのうち130戸は廃屋に近いと確認している。その残りのうち住め

る状況にある物件に対して建造物の判定基準を設け老朽化・危険度をA B C Dとランク分けを行い、そのうちA Bランクなど小規模の修繕で住める状況にある物件を住民課と空き家の管理者の方と情報を共有していった結果、80戸くらいの登録がなされている。

なお、それ以外でも移住支援として平成9年からいきいき定住促進条例の中の結婚祝金、出産祝金であるとか、定住奨励金として3年間働くと10万円とか、特に住宅補助金は平成29年から空き家バンクの登録物件に限定して、補助率1/2・上限50万円を所有される方、使用される方のどちらでも利用できる使いやすい形で支援していること、同居奨励金も昨年から復活し、また家財道具等処分補助金として、契約後、10万円を上限として1/2を補助していること、さらに空き家バンクの物件に対して、修繕に係る費用の見積を行う、空き家物件修繕見積として一律2万円で地元の大工さん等に見積もりしてもらおう制度をとり、安心して住めるよう具体的な情報を提供しているとのことであった。

また、移住専任相談員を配置し、移住希望者と地域と相談窓口を繋ぎ空き家バンクや移住相談制度など窓口で対応することにより移住後のフォローアップも含めて、窓口を一本化することで人が人を繋ぐ取組みを行っている。

まちづくり協議会の地域とどう繋がっているかという点、地域振興センターを設置している7地区に集落支援員さんという形で移住定住制度の特化型として協力をお願いしており、1名ずつの配置で空き家の把握と確認や所有者への働き掛けを行っていただく取組を行っているが、順次3地区くらいの取り組みとなっている。そこでは空き家バンクの登録推進であるとか、移住希望者の地域の案内であるとか、バスが停まってからの行き方や雪かきの捨て場所等本当に困っていることの相談窓口としてサポートしていただくことでスムーズな移住に繋がるのかなということでその情報交換ということで移住専任相談員がサポートしているということである。

#### ○定住促進住宅

農林研修生として2年間、給与をもらいながら研修を行う制度をとっている。小学校の廃校を一部改修し、単身用（6畳、8畳の1K）の住宅を整備している。

平成28年頃にお試し住宅として中学校の寮を改修整備し、月額3万円（すべての経費込み）で募集しており、また、3日間6千円で県外の方のお試し住宅とし

でも提供している。

#### ○子育て支援

保育料は無料、18歳まで子供医療費助成、子育て支援センター（放課後児童クラブ）の制度や平成29年4月からは、高等学校教科書等補助金（年額15,000円）、平成30年からはへき地からの通学のため高校生通学費等補助金（年額上限5万円）の制度を充実させることに踏み切った。

#### ○農林業支援

地域おこし協力隊として年間を通したカリキュラムで農林業の知識や技術習得する。研修期間は1～2年間研修として月額16万6千円を支給する。

#### ○にちなん中国山地林業アカデミー開校

旧保育園をリニューアルして平成31年4月に関連企業、大学等専門機関とタイアップしながらアカデミーを開校予定。入学金は不要、研修期間は1年間とし、現在10名の生徒を募集している。

【委員】78件の空き家バンクの登録は、将来的に貸したり売ったりできるという件数か。

【日南町】そうです。大家さんから空き家バンクに登録申し出のあったケースである。法事が終わってからなどの途中段階の物件は含まれていない。実際は、既に売買契約が終わっているものもあれば、賃貸には難しいところも含まれており、即入居できそうな物件は10件程度である。

【鳥取市】インターネットで町長さんが市政方針で移住定住に一番力を入れておられて、8年間で700人の移住者あったということで凄い数字だとお見受けしたのですが、要因は移住専任相談員や集落支援員の配置によるものですか。

【日南町】転入された人が全てその窓口で来られたというわけではないが、空き家バンクは結構早くから取り組んでおり、制度が始まったのが平成18年くらいなので地域にも浸透してきている。町を歩いている人を見かけたらどんな人なのかとか紹介していただき顔合わせをしておくことでお互い困った事で何かしら話も出来ます。溝掃除や雪かきなど地域の活動を一緒にしていただくことで生活が成り立つことなど相談員から説明してもらっている。家を買われるということは、大きな選択になるので、なるべく家を借りるところから始めていただき地域とうまく関わっていける方に買っていただけるような説明をさせていただいている。

【委員】移住専任相談員さんを設置されたのはいつからか。

【日南町】平成28年からである。

【委員】設置されてから変わったか。

【日南町】平成28年の相談件数を見ていただくとわかるように異常なくらい伸びていて全国的にも高かったようで、その次の年にガクッと落ちているのは日南町だけではないようだが、同じ方がいつ来ても引き続き相談できることや段階が分かるように紙に記入していただいているので、一から話さなくてもよいようにどの段階まで話が進んでいるか共有できるよう把握しています。また相談員さんに会いにきたいということもあってうまく繋いでいただいている。

【委員】鹿野町にも未婚の男性や女性がいます。出会いの場は若干あるが、なかなか結婚まで実らない。鳥取県全体でもそうだが日南町ではどうか。こういう制度があってカップルが増えたとか未婚の方が減ったとか。

【日南町】以前は婚活事業を推進するための課もあったが、町が先導しての婚活事業はなかなか進まなくなり、町に知られたくないという声もあり、民間の団体がサポートしてくださっていた団体自体も行き詰まり、一昨年に一度ストップした経緯がある。それまでは男性、女性の魅力アップ講座であるとか出会いの場のイベント等の開催も行っていたが、なかなかうまく実らなかったのが現状である。今年度は、町長の「婚活というのは社会教育の一環だ」という考えもあり、教育委員会でそういった取り組みが始まったところである。結婚祝金や出産祝金によってカップルが増えたかということと正直どうかということところだが、もしかして2人目、3人目を悩んだ時には出産祝金もあるということだったかもしれない。直接町長から手渡しで一緒に写真を撮ってお配りしている。結婚祝金や出産祝金はあくまでも町からの祝金であり詳しく調べると次の年には転出している場合もある。どちらかということ移住・定住の方に力を入れる中でそういった祝金も一歩に繋がるのではないかという思いである。

【鳥取市】空き家バンクのことですが、賃貸借と売買とありますが、大家さんと移住者の金額の交渉であるとか一般的にはこういった流れで決着されていますか。

【日南町】まず顔合わせということで移住専任相談員も含めて話を進めた方が良いかどうかを聞いて間に入っている。基本的には町は関わらず、賃貸にしても売買にしても本人同士の契約ですのでトラブルにならない様にしてくださいと説明



している。相談があれば一般的な契約書の手引きをお示しし、修繕の部分等を記載していただいている。契約後のお互いのミスマッチで言いにくいところを間に入ることはある。

【委員】 集落支援員はどういった方か、嘱託職員なのか。

【日南町】 1年間の任期で地域ごとに委嘱し活動していただいている。町内7地区の地域振興センターには事務長を町の嘱託職員として有償で配属し、その中の事務的な部分で基本的に地域の方をまちづくり協議会長と町長の両方の名前で委嘱している形である。その中でも移住支援の特化型をお願いしている集落支援員の方も数名いる。

【鳥取市】 空き家を確保するという事で固定資産税のお知らせの時にチラシも配布するという事ですが、効果はどうでしたか。

【日南町】 効果はある。集落支援さんへの問い合わせであるとか、死亡届の手続きに来られた時はなかなか話しづらかった時期であっても改めて落ち着かれてから通知のチラシを見て、実はという出会いの機会が作れている。

【委員】 賃貸の金額は大体いくらか。

【日南町】 2万円くらいである。ただ大家さんが5万6万円と言われればそれは可能。ただ古い家の多くは、大家さんが修繕しない場合が多く、入居者が好きにリフォーム等やっているケースも多い。

【委員】 原則、借主が修繕するのか。

【日南町】 基本そうである。中には大家さんが修繕する場合もあるが・・・。

【委員】 好きに修繕してもいいのか。

【日南町】 大家さんに一声かけていただくのが基本である。

## 6 閉会

### ○視察報告（視察を終えての委員の感想）

- ・日南町では、道の駅を核とした町民総活躍の場づくりの政策としてコンパクトビレッジ構想に着手していることに注目して今回の視察に臨んだ。その核となる道の駅「にちなん日野川の里」は、加工食品や木工芸品、地元野菜など、思ったより品薄に感じられ、さらにインフォメーションだったと思うが閉鎖さ

れていたことも気になった。もしかするとウィークデイ、あるいは指定管理者の変更が原因しているかとも思ったが、私たちの町も来年には、道の駅を核とした新たなステージがスタートするので、もう一度週末にでも行って道の駅の本来の賑わいや、日南町巡回バスの運行状況など視察し、今後の参考にしていきたいと思う。

- ・固定資産税の税のお知らせの時にチラシと一緒に配布して情報を発信しているという方法は良い案だと思った。

- ・公共交通施策の取組みと移住・定住の空き家バンクの取組みは良いと感じた。中でもNPO独自で行っているドア・ツードアの運行で、少々乗車金額が高くても地域住民を説得して運行されていることが凄いと思った。

- ・平日ということもあったのか、思ったより人がいなかったのが気になった。